

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良（S47～）

小課題名：燃油高騰に対応した変温管理による低コスト鉢花栽培技術の確立（H27～29）

担当者名：加藤成二、穴澤拓未

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 （背景、社会的ニーズ）	5 / 5	ここ数年来の原油価格の高騰により、農家の維持経営が逼迫している。化石燃料に頼らない施設園芸における暖房費節約栽培法の確立は必要不可欠であり、研究課題の社会的ニーズは高い。
2 課題の新規性、独創性	4 / 5	同様の課題が独法や都道府県で実施されているが、いまだ技術としては確立していない。そういう意味からは、課題の新規性、独創性はやや高い。
3 目的・内容の整合性、妥当性	4 / 5	対象花きが多くあるので、研究工程を明確にすることにより、課題の目的と内容との整合性、妥当性がより高くなるものと考ええる。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4 / 5	技術的可能性は高いと考えるが、そのためには、個々の花きにおける温度反応を速やかに明らかにする必要がある。
5 成果の期待度	5 / 5	数値目標も掲げられ、課題に対する研究の進め方もしっかりしているので、研究成果の期待度は高い。
総合評価	4 / 5	独法や都道府県における研究データを調査し、研究工程を明確にすることで、より可能性のある研究計画が作成出来ると思われる。従って、本研究を実施する価値は十分にあると考える。

試験研究機関の処置

研究内容はシンビジウムと鉢物に分け、シンビジウムは予備研究の結果を踏まえて冬期の栄養成長や開花に及ぼすEODの影響を明らかにし、栽培管理技術を確立する。鉢物は、EOD温度反応の高い品目を選定し、最適な温度条件を明らかにした上で省エネ栽培技術を確立する。これらの試験を効率よく実施するために、これまでの研究成果や研究手法を整理・改変し、本試験への活用を図る。

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：環境保全型農業における病害虫防除技術の確立（H27～）

小課題名：1 施設トマト・キュウリにおける微小害虫の耕種的・物理的防除技術の確立（H27～29）

2 施設トマト・キュウリにおける主要病害の物理的防除技術の確立（H27～29）

担当者名：國友義博、金谷未央

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 （背景、社会的ニーズ）	5 / 5	環境保全型農業はいつの時代においても、新病害虫や薬剤耐性の発生があり、推進すべき課題である。特に、トマト・キュウリのような主要作物においては、社会的にニーズは高い。
2 課題の新規性、独創性	4 / 5	研究そのものの新規性、独創性は高くはないが、病害虫の分布および発生要因の解明、農薬の代替りの肥料の利用という点に独創性が認められる。
3 目的・内容の整合性、妥当性	5 / 5	トマト・キュウリという山梨県の主要作物を対象にした課題であり、課題の目的と内容に整合性、妥当性がある。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4 / 5	山梨県の気象資源を活用した手法であるが、地域と綿密に情報交流をすることにより的確な方策が立てられるものと思われ、技術的可能性も期待できる。
5 成果の期待度	5 / 5	山梨県において総合的防除体系の確立が重要である。また、薬剤防除だけでは防除が難しい病害虫だけに生産者の期待は大きい。
総合評価	5 / 5	研究工程を明確にすることで、より可能性のある研究計画が作成出来ると思われる。従って、本研究を実施する価値は十分にあると考える。

試験研究機関の処置

微小害虫は、現地および所内のハウス内での生態や生息状況を明らかにし、これに基づいて本県特有の気候を活用した夏期の蒸し込みや冬期のハウス開放による低温を利用した防除技術を確立する。病害は、これまでの研究成果を整理・活用し、有効な資材や光条件を明らかにし、これらを用いた防除技術を確立する。いずれの研究も普及組織やJA、生産農家と連携することによって試験を進め、現地に適用できる防除体系を確立する。

